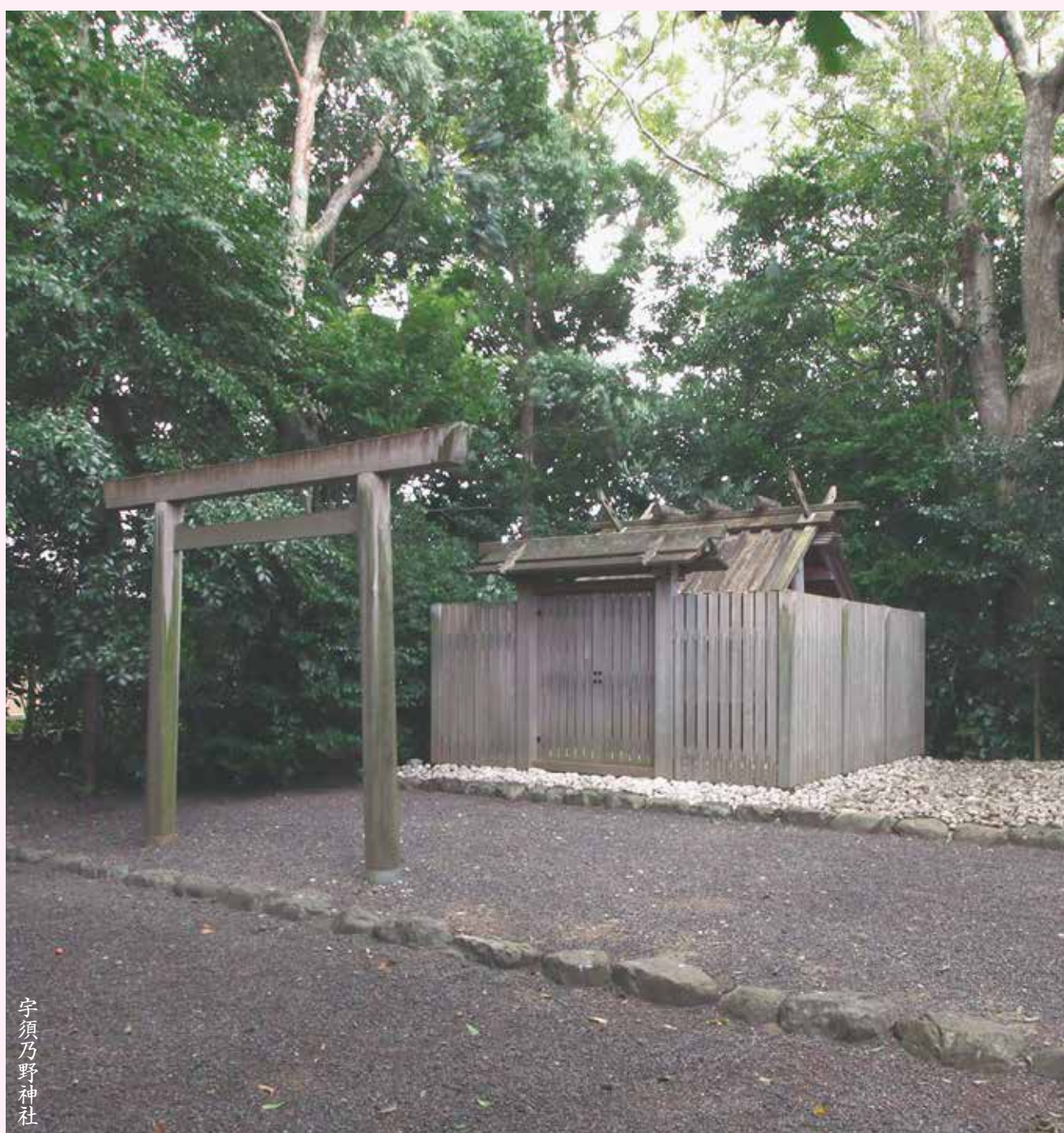


法友 For You

2019. 1 No.53

【発行】(公社)伊勢法人会 女性部会広報委員会
〒516-0037 三重県伊勢市岩渕1丁目7-17
伊勢商工会議所5階
TEL 0596-28-5665 FAX 0596-24-8315



宇須乃野神社

平成の輝き、新年号の躍進



部会長
平石 紀久子

新年あけましておめでとうございます。

今年の五月に皇太子さまが新天皇に即位されて新しい年号が始まります。新年度も女性部会の輝き魅力ある法人会事業の活動に会員の皆様ご支援、ご協力をお願い致します。

昨年は数多く台風が上陸、接近し異常な雨量での豪雨災害で水の怖さを知る事故に、救助活動では皆で協力し励まし合い助け合う感動も知る年でした。又部会活動では猛暑日が続くなかでの夏休み親子映画会では二会場別々の映画を上映して集客を伸ばす取組をしたり、上映前の租税教室では着任早々の田中統括官様の税金博士による税金クイズで税の勉強で参加された児童さんには夏休みの思い出の一つにしていただいたと思います。

バス研修は伊賀方面に沢山の参加者さんと専務さんの手作りの税金クイズで大変もりあがり、皆さんが忍者の街並みを散策中に伊賀法人会の女性部さんと副

部会長と少しの時間でしたが交流をさせていただきました。合同スポーツ交流会は前年度で大変好評でした。ダーツで楽しい時間を過ごすことが出来ました。

十一月の税金展にむけての「絵はがきコンクール」募集にも皆様の協力のお陰でいままでの応募数では二番目に多い応募数で皆様の努力のおかげです。グループ別研修会も二十四回目になり伊勢法人会女性部会の事業では一番力をいれています。活動の一つで今回は今年の十月から導入されます軽減税率で大変盛り上がり参加者の皆様も勉強になったと喜ばれました。

女性部会の事業も皆様のご協力、ご支援で進めて頂き新年を迎えられました。あとは一月半ばかり始まる租税教室と二月には楽しみの署長様の講話と親睦会をもって本年度の事業を終わらせていただきます。

最後に皆様のご協力ご支援と絶大な支えで何も出来ない指導力もない私を見守って下さいまして本当にありがとうございます。そしてご指導、ご協力を賜りました税務ご当局、本会の皆様に感謝申し上げます。

女性部会員の皆様温かい励ましを沢山いただきました。本当にありがとうございます。



今年のバス研修は、九月十三日、三十九名で伊賀上野に出かけました。当日は女性部会のパワーで前日の雨雲を吹き飛ばし、暑いほどの好天気でした。



「忍者の町・伊賀」

平成30年9月13日(木)



伊賀では、忍者博物館で忍者の歴史や生活等を学び、忍者屋敷のからくりにあつと驚きました。その後は昼食まで自由散策。伊賀上野城やだんじり会館の見学をする人、更には伊賀の組紐体験をする人と、それぞれが歴史ある伊賀の町並みを楽しみ時を過ごしました。



時の人



伊勢税務署
副署長

土 嶋 千 春 氏

★出身・生年月日

生まれは知多郡武豊町ですが、ずっと名古屋で育ち、結婚後三年ほどで夫の実家である松阪へ移り住みました。松阪で過ごした年数が一番長くなりましたが、今でもふとしたときに名古屋弁が出ます。生年月日は十二月二十九日、年女です。

★家族構成

夫と二人暮らしです。三人の子供は家庭を持ち、名古屋と鈴鹿で暮らしています。男三人と女一人の孫がいて、時々やってきては癒やしてくれます。

★伊勢の感想

四度目の勤務なので「ただいま」という感じで、伊勢弁を耳にすると懐かしく感じます。そしてやはり神宮があるせいでしょいか、伊勢市駅に降り立つと、厳かでピンと張

り詰めた空気を感じて毎朝背筋が伸びる思いです。

★前の仕事

名古屋国税局総務部税務相談室です。名古屋国税局管内の税務署に架かる電話のうち、一般相談を一手に受ける部署です。主に所得税に関する質問や、年末調整の電話を受けていました。最高で一日一〇〇本ほどの相談を受けました。

★趣味

ゴルフを楽しんでいます。始めたのはずいぶん前ですが、ここ数年はコースへ出ることも多くなりました。夫を含めた身内ばかりで和気あいあいとやっていますが、気持ちよくストレス解消しています。

★座右の銘

「日々努力」です。何に対しても「出来る」といいな、負けたくないな」という気持ちを持つていますが、ありふれた才能ありませんのでひたすら努力するのみです。ただ、最近は自分を甘やかしてイメージトレーニングも取り入れて楽をしています。

★心がけ

笑顔と笑声（えごえ）を心がけています。常に明るく笑顔で話すことで、どんな相手ともお互いの距離が縮まる近道だと思っています。

★印象深い仕事、勤務地

税務相談室で電話相談を受けて最後に「ありがとう、よくわかったわ」と言っていただいた時に、自分が税務職員として少しは役に立っているのかなと実感しました。言葉だけで説明してわかっていただくことは苦労もありましたが、毎日の大勢の方と話すことは大変勉強になりました。

★女性部会にメッセージ

いつもお会いしても皆さん元気はつらつ、服装もお化粧も素敵で、憧れの視線を送っています。本来ならば大変であろう様々な会活動を、女性ならではの明るさで積極的に取り組みられていることは素晴らしいと思います。

★今後の女性部会に一言

部会長はじめ役員、会員皆様の笑顔と笑声でますます女性部会を盛り上げていただき、引き続き活発で有意義な活動をされますことを期待しています。

同日、伊賀法人会との交流会を「伊勢之家」にて開催しました。



昼食は「伊勢之家」の伊賀牛天板焼付ランチで、柔らかい伊賀牛肉に舌鼓を打ちました。



最後の見学場所は伊賀越第二工場でした。製造過程のビデオを興味深く見た後は、お買い物タイム。お醤油、お味噌、お漬物等、一番身近な生活必需品が工場直売価格で買えるとあって、レジは長蛇の列となりました。お財布が軽くなった分、荷物は重くなりましたが、両手にお土産を提げて足取り軽く帰路につきました。とても楽しく充実した一日でした。

親子映画会



毎年恒例の夏休み親子映画会が、八月二十一日シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢、八月二十四日阿児アリーナで開催されました。

今年は、伊勢は「SING シング」志摩は「パディントン」と初めて二会場別の映画を上映しました。その結果、二会場に足を運んで下さった方もいました。上映前には租税教育として着任早々の伊勢税務署田中統括官に先生役をお願いして「税金〇×クイズ」を実施。会場の子供たちに参加していただき、楽しく税金の勉強をしました。田中統括官ありがとうございます。



第11回 夏休み



た。又「ただ今考え中」の音楽も好評で口ずさんでいる子供たちを何人か見かけました。伊勢では「はなてらすちゃん」、志摩は「しまこさん」がお手伝いいただき会場を盛り上げてくれました。両会場共、台風十九号・二十号の影響でお天気にはあまり恵まれませんでした。大勢の方に来ていただき、「楽しかった」の声を聞くと、改めて親子映画会を、楽しみにしてくださっている事を実感しました。

お手伝いいただきました、会員の皆さまありがとうございました。

第28回

情報交換会

平成30年10月23日(火)
於：松阪フレックスホテル

平成二十八年度の伊勢に続く開催となった情報交換会が、三重県法人会連合会会長宮崎由至氏の力強いご挨拶で始まりました。

第一部は、今回の開催地である松阪法人会女性部会の「女性活躍時代」企業のアスリートとして」というテーマで発表がありました。松阪木綿の美しい着物をお召しになった会員様の、希望に満ちた歌が印象的でした。



第二部は、本居宣長記念館館長 吉田悦之氏の「松阪と本居宣長」と題した講演があり、大変な努力家であった本居宣



長の魅力あふれるお人柄から「まねぶ」十項目は、大変勉強になりました。

第三部では、松阪法人会女性部会による租税教室の取り組みの成果を拝見し、出演した小学生の発表内容の完成度の高さに、会場から感嘆のどよめきが起こっておりました。その後の懇談会では、美味しい食事と他部会の方々との交流を楽しみ、大変有意義な一日を過ごすことができました。

税金展

税に関する絵はがき

コンクール

平成30年11月4日(日)

於：いせシティプラザ

十一月四日、いせシティプラザに於いて税金展が開催され、その中で税連協主催の「税に関する作品合同表彰式」が行われました。

今年も租税教育活動の一環

として、夏休み前に各学校を訪問し、「税に関する絵はがき」のお願いをいたしました。

八六六点の応募があり、その中から最優秀賞・喜多莉央さん(御園小六年)をはじめ、三十一名の入賞者や学校賞を決定し表彰いたしました。

表彰式では、一人一人が壇上に上がり、賞状と副賞を受けとり、最後に皆で記念撮影。保護者の方々も我が子の晴れ姿を嬉しそうに写真に収めていました。又、来ていただいた子供達に税金クイズを実施し、税の啓発活動を行いました。



合同スポーツ交流会

平成30年9月28日(金)

九月二十八日、午後六時より、伊勢市民活動センター(いせシティプラザ)にて、伊勢税務署、青年部会、女性部会合同スポーツ交流会が開催されました。

伊勢税務署からは、大西署長様、土嶋副署長様、田中統括官様他十七名の皆様、青年部会からは石川部会長はじめ十七名、女性部会からは平石部会長はじめ十九名のご参加をいただきました。競技は、



ツ。リーグ戦での一位、二位が準決勝、決勝へと進みます。

誰もができる簡単な競技ながら、うまく命中したり、外れたりしながら、そのたびに歓声があがり、全員で楽しいひとときを過ごさせていただきました。そして、どの賞にも豪華景品が…!

準備万端に整えてくださった青年部会のおかげでスムーズに進行させていただいたことにも感謝です。



このような交流を通して生まれた連帯感を、今後も大切に、税の啓発活動に生かしていけたらと思います。



納税表彰式

おめでとうございます

★名古屋国税局長表彰

村田 典子

角仙合同株式会社

★伊勢税務署長表彰

向井 澄子

南部急送有限公司

★伊勢税務推進協議会長表彰

伊藤 由美子

イセツ株式会社伊勢支社

平成三十年度納税表彰式が、十月三十一日(水)名古屋、十一月九日(金)伊勢シティホテルで執り行われ、三名の方が受賞されました。

はつらつ新入部会員紹介

(平成30年6月14日～11月30日)

山口 清子 (有)山口建設 宮川支部



(敬称略)

太神宮 あちこち

第8回

宇須乃野神社

神宮権禰宜 石垣仁久

外宮から見て北西部に広がる高向の地名の由来は種々あるようですが、その一つに外宮に聳える高倉山に對峙するように向かう土地とする説があるそうです。その名の通り、古くから外宮とつながり深い土地であったのかも知れません。

その高向に豊受大神宮摂社十六座の一社である宇須乃野神社が鎮座しています（高向公民館近くの南世古）。この神社は平安時代の『止由氣宮儀式帳』（八〇四）と『延喜式』（九〇五）にも記載されており、古くから存在していたことが判ります。

鎌倉時代の『神名秘書』（度会行忠著）は、当社を「高向郷高向村に在り、二社同じ玉垣内。鳥居一基。蘭御社と同座なり」と記しています。同座とは異なる神社と一緒に祀られることです。鳥居が一つということとは、神社としては一社に見えますが、御垣の中には異なった神社が二社あるのです。そのひとつが蘭御社とされますが、詳しい事は伝わっていません。

江戸時代の神宮百科事典とも言える『神宮典略』（蘭田守良著）は、蘭社として一項目を立て、おおよそ次のように説明してい

ます。

蘭とは何を指すのかわからないが地名だろう。

祭神も不明で『神名秘書』は五穀霊神というが証拠がない。恐らく蘭の字からの推量なのだろう。

度会家行の『類聚神祇本源』は蘭社と呼ぶ由来は不明としている。行忠の『神名秘書』には「高向村宇須乃野神社、園御社と同座」とあるのだが、付近に園という地名があるのか調査しないとわからない。

また『神名秘書』に「園社は高向神社にある」としている。園社と神社は一緒の敷地にあると思われる。神社とは神饌の意味とすれば、それを根拠に『神名秘書』は五穀霊神と断定したのである。他に見当たらない神社なので判断が難しい。

また、『神祇本源』に園行嶋社という神社も出てくるが、それも詳しくはわからない。

ここで説かれた蘭・園は、神に供える野菜などを産する土地で、神計（御饌）は供え物の事です。恐らく古くは高向が

外宮の御園の役を果たしていたのが、次第に他所に移ったために本来の意味がわからなくなっただけではないでしょうか。（現在神社港に外宮摂社の御食神社があります。神計神社との関係は不明です）

外宮の御巫清直の『二宮管社沿革考』は、「御竈木帳に、宇須野社とある。この社は今も高向村にあり、住民はモリ社と呼んでいる。」と記しています。

この記事を少し説明すると、当時宇須乃野神社は所在不明となっており、寛文三年（一六六三）にモリ社と呼ばれる土地に再興したので、外宮末社の毛理神社が昔あった場所に宇須乃野神社が再興されたのではないかと話になったようです。しかしそれは誤解で、宇須乃野神社の祝（地元の管理人）を高向の森氏が務めていたため、モリ社と呼んでいたのが原因のようで毛理神社とは関係がないようです。

なお現在は、外宮八末社のひとつ県神社が同座しています。さて、神社の名称を正式には社号といい、多くの場合は御祭神やその御神徳、鎮座地などに関連しています。宇須乃野とは、漢字の充て方から見て「宇須乃」、もしくは乃を格助詞「の」とみて「宇須の野」という地名が先ず浮かびます。次に思い浮かぶのが臼です。

臼と日本人の関係は古く、登

呂遺跡などからも出土しており、弥生後期の銅鐸にも臼が描かれています。

臼の上部は窪んでいるので、宇須野とは臼のように窪み地形をいうのか、元の鎮座地が不明のままでは確かめようがありません。

脱穀や製粉に用いる石製の挽き臼の普及は、日本人の食生活に革命の変革を与え、食物を粉にして保存する技術が未発達であった時代に、祭日の「ハレの日」の特別な食べ物であったダングなどが、日常的な「ケの日」の食べ物に移行したことを民俗学者の柳田国男は『木綿以前の事』で指摘しています。

このように臼は日本人の食生活と深く関わってきた道具ですから、宇須乃野神社の社号となった可能性もありますが、挽き臼の普及は室町時代で、平安時代の記録には既に宇須乃野が出ていますので、社号の方が早かったかも知れません。

また、高向は宮川流域ですからウスノのスは、州に關係している可能性もあります。古代の宮川は現在のように伊勢湾に向かって直進しておらず、支流を含め多くの流れが山田原を分流していました。それが「百船の度会」（多くの船が渡りあう）という枕詞を生み、その水利こそが外宮の度会氏繁栄の基だったわけです。宇須乃野神社が外宮

の摂社であった理由もそのあたりにあるのかもしれない。

現在一面の陸続きの高向回りも、古代は宮川支流が複雑に入り組み、州を形成していたとしても不思議はありません。しかしながら、高向周辺を実際に歩いてみると、起伏のない平坦な土地であることがわかります。かつて河川に挟まれた中州であったように見えませんが、もっと広い意味での州だったのかもしれない。

最後に宇須乃野は、ススキが生い茂る「薄野」、もしくは「薄の野」などが語源なのかもしれない。ススキをお月見の時に飾る風習があるのは、太陽と稲の組み合わせの裏返しで、月と薄がセットになっているからです。中秋の頃、最も力を持った満月の光を受け、野原に生い茂る薄は聖なる植物となり、お祓いなどの呪術に用いられました。このことは薄が生活に不可欠な植物であったことを物語っています。

六月と十二月の大祓の日に潜る茅の輪は茅葺で作られますが、茅葺と薄はよく似た性質があります。最も注目したいのはそれらが屋根を葺くのに適していることです。

河原に面した高向は、外宮の屋根を葺く材料を求めた土地との関係も深かったのではないのでしょうか。